# 病院紹介

医療法人社団行陵会

# 大原記念病院

〒601-1246　京都府京都市左京区大原井出町164　TEL 075-744-3121　FAX 075-744-3126
http://www.kouryokai.jp/

入退院相談窓口地域医療連携室
TEL 075-744-2050　FAX 075-744-3158

## 大原記念病院　理念

私達は常に利用者に信頼され、安心していただける医療を提供します。

一.インフォームド・コンセントを徹底し、利用者の権利を尊重します。
一.保健と福祉との連携を行い、地域社会に貢献します。
一.高度なリハビリテーション病院を目指し、利用者の在宅復帰をサポートします。

**診療科目**　内科・外科・整形外科・皮膚泌尿器科・循環器科・胃腸科・神経内科・歯科・リハビリテーション科・リウマチ科

**病棟・病床数**
- 一般急性期病棟：31床
- 特殊疾患療養病棟：25床
- 回復期リハビリテーション病棟：147床

**施設認定**
リハビリテーション総合承認施設（Ⅰ）
言語聴覚療法（Ⅰ）
日本リハビリテーション医学会研修施設
日本リウマチ学会教育施設

**施設認定**

| | |
|---|---|
| 1981年（昭和56年） | 大原記念病院開設（74床） |
| 1983年（昭和58年） | 大原記念病院　203床に増床 |
| 1995年（平成　9年） | 療養型病床数（107床）導入 |
| 2000年（平成12年） | 回復期リハビリテーション病棟導入（98床） |
| 2001年（平成13年） | ISO9001認証取得 |
| 2003年（平成15年） | 特殊疾患療養病棟　開設（25床） |
| 2005年（平成17年） | 回復期リハビリテーション病棟増床　合計147床 |

**交　通**

●市街より、送迎シャトルバス随時運行（詳細は当院までお問い合わせ下さい）
京阪「出町柳駅」・地下鉄烏丸線「今出川駅」・地下鉄烏丸線「京都国際会館駅」他アクセスポイントよりご乗車
●一般交通機関ご利用の場合は下記のとおり
①JR京都駅より、京都バス「八瀬大原ゆき」乗車(所要約50分～60分)、「花尻橋大原記念病院前」下車。徒歩2分
②JR京都駅より、地下鉄烏丸線「京都国際会館ゆき」乗車（所要約20分）、「京都国際会館駅」下車～京都バス「八瀬大原ゆき」乗車(所要約15分)、「花尻橋大原記念病院前」下車。徒歩2分
③京阪電車「出町柳駅」より、京都バス「八瀬大原ゆき」乗車(所要約25分)、「花尻橋大原記念病院前」下車。徒歩2分
④阪急電車「四条河原町駅」より、京都バス「八瀬大原ゆき」乗車(所要約40分)、「花尻橋大原記念病院前」下車。徒歩2分

## 患者の自立支援と家族の負担の軽減

大原記念病院は、平成12年4月に、京都府下で初の回復期リハビリテーション病棟を開設した。
一般病棟では主として、急性期の医療サービスを提供するとともに、医療機関の機能分化の流れの中で、京滋地区を中心として各医療機関との連携強化を推進している。大原記念病院の目指すものは「在宅復帰」である。そのために必要な環境を整え、対象者にとって一番最善の環境を作ることを提案しているのだ。
在宅復帰へのステップとして、従来訓練室で行われていたリハビリを、「生活環境＝病棟」に持ち込んだ、ベッドサイドでのリハビリテーションを実施。
「できるADL」から「するADL」へと、従来の概念を払拭したシステムにより、患者様の入院期間の短縮が実現された。また、大原記念病院・回復期リハビリテーション病棟では、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）の病棟担当制を導入している。この画期的ともいえるシステムを導入した当初は、専門職・介護職スタッフとの間に戸惑いや誤解も生じたという。しかし、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）が病棟に常駐していることによって、対象者の日常生活動作能力や基本動作能力を、リアルタイムで正確に判断できるというメリットもあり、効率的な訓練を取り入れることができた。
そして、他職種との連携もスムーズになり、お互いの職域を生かした訓練の企画・実施が可能となり、回復への時間が短縮され、自立への近道となった。スタッフが「患者様の自立」という共通の目標があるからこそ、今ではさまざまな問題点もクリアにされ、病棟担当制度が認識されつつある。こういった「ボーダレスの人事」によって、リハビリサイド・看護職、専門職サイドとのディスカッションが実現。患者様や、患者様を取り巻く環境などの「情報の共有化」が実現している。

大原記念グループのサービスネットワーク（図1）

## 多くのスタッフでゆとりあるリハビリテーション

大原記念病院では、在宅へのステップとして、最低3度のカンファレンスに加えて、在宅への移行がスムーズに行われるように、家族や介助者とのコミュニケーションを深めることを重点においている。患者様のバックグラウンドを知ることによって、どのような訓練が対象者にとって必要なのかを判断する材料となる。
在宅復帰の問題点に関しては、退院前に自宅訪問を実施することによって普段の生活環境をチェックし、住宅改修などを紹介する。これによって問題点が改善され、危機回避につながっている。また、家族や介助者の負担を軽減させるために、疑問や不安な点について話し合い、大原記念グループのサービスネットワークを最大限に利用し、「スプーン一本から家一軒まで」のきめ細やかなサービスの紹介を行うこともできる（図1）。

大原記念病院のスタッフ数は、PT25人、OT25人、ST6人の、基準値　以上のスタッフ数で構成されている。特にSTにおいては一般病棟と3つの回復期リハビリテーション病棟に、それぞれ1～2名ずつの担当制で各スタッフが病棟を回り、患者様の嚥下状態をチェックする。京都府下において、1つの施設にSTが2名以上所属している病院は少なく、ケアも充実している。スタッフは経験年数に応じた研修を頻繁に行い、技術向上に努めあらゆる疾患・障害・患者様のニーズに対応すべく、日々研鑽が積み重ねられている。